

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	特定非営利活動法人 セイブアライフ	
代表者名	小野 恵	
連絡先	TEL : 090-7566-1453 FAX :	E-mail : yukika-ayane@outlook.jp

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	虐待・貧困化の子供たちの学習・将来の夢支援 ＝緊急寄り添い・学習支援＝
事業の目的	児童養護施設の児童に、寄り添い学習支援を行うもの。コロナ禍で虐待児童が増える中、家庭環境の補填として学習の遅れによる不安感を和らげ、大切にされた自己肯定感、将来への意欲を涵養するもの。また、施設後に離職・貧困の連鎖に入らないように、基礎学力の維持と、将来の職業・資格の夢を持てるよう年齢の近い学生が相談支援する。学費・寮生活など好条件の進学・就職を目指し、中高生には専門分野の紹介、小学生の脳機能の補填など、施設専門職員の補助をする。
事業の具体的内容	<p>仙台天使園と小規模ホーム3か所（さくら茂庭・つばき茂庭・みずき高森）で活動。</p> <p>教育系大学生（15名）と社会人（2名）ボランティアが、児童個別に一回2時間の対面学習支援を行った。月に2回、児童ごとに教材はVOが作成。日常会話重視。</p> <p>新たに、小学生の学習欠落部分に着目し、園内寺子屋学習企画に参加、学生を派遣し11名の小学児童に個人の到達度チェックをした。個人の適性に応じて段階ごとに基礎学習の補填を試みる。これは宮城学院女子大学学友会学習支援部と共同で行った。</p> <p>また、ボランティアの質的向上のため、講習会を年末にNPOプラザにて実施「児童養護の現状」講師：天使園土倉園長</p>

<p>活動の開始から完了までの流れ</p>	<p>緊急性と寺子屋企画準備のため夏休み8月から開始。9月から本格的に宮城学院女子大と共に、小学生個別到達度診断と個別支援を行った。(学習塾作成テキスト)</p> <p>7月より開始していた個別の寄り添い支援は、浄財を得て9月から回数を増やし2022年4月末日まで行った。施設側に感染者がでたり、9月は大学のボランティア自粛通知と教育実習により空白ができた。この間社会人2名(塾講師及び英語教育専門)がフル稼働で支援に当たる。</p> <p>本園小学生学習希望者3名、本園中三男子1名の数学特殊才能の開発と中三女子1名、小規模ホームつばき男子中高生4名、さくらホーム女子児童2名、高森みずきホーム女子児童4名の支援を行う。合計15名</p> <p>翌1月中旬より3月初めまで外部支援自粛期間となり、空白ができたが隙間を見てできる限りの支援を実施。受験生(中三4名)はすべて希望先に決まる喜びを得た。</p> <p>また、ボランティア研修を12月26日にNPOプラザで実施、自分たちの学びと交流を行った。</p> <p>残念ながら、育児放棄が小学生脳内物質にもたらす医学的理解(マルトリートメント)は、集合機会が読めない中実施が困難であった。</p>
<p>活動の成果と教訓</p>	<p>本園寺子屋小学生低学年3人(8回):まず机に座ること、15分の集中学習から開始。児童一人に個別女学生。学習時間の切り替えや意欲興味の呼び起こし、ホスピタリズムの懸念から生活の落ち着きを目指す。</p> <p>本園中三(計8回中9月から4):担当、東北大医学生と宮教数学科女子学生の2名。数学の特殊才能に対応、空間処理能力や公式の自作法、数学談義などを伸ばした。数学者になる夢を持ち、県工業高に推薦合格。</p> <p>本園中三女子(5回):受験前集中支援。2名の女子学生担当。受験科目以外の学習を希望し自信をつける。明るく面接ができ高等養護学校合格。</p> <p>さくらホーム中二(15回中8):私学バレー部推薦を希望。現実に気付き、精鋭の支援者に良く懐いて県立高校を目指し夢変更、挽回を期す。</p> <p>つばきホーム高等3年男子(11回中4):教育大音楽専攻女子担当。運動部で努力し数学が好き。学校の授業は無く、就職後も生活数学に困らないよう本人希望。支援者自作の教材で穏やかにまなぶ。4月就職</p> <p>つばき県立高校1年(5回中4):中三で当支援を受け進学。高一で得意な英語の資格に新たに挑戦。英検準一級の女子学生担当。勉強法や弱点補強の指示により自学自習も増やす。英検3級に合格しさらに上を目指す。</p>

つばき中三(9回中6):教育大硬式野球部捕手学生担当。中学野球部引退から受験まで支援。生活の相談から定期試験の手伝いまで行う。私立高進学コースに合格し職人資格を願う。

つばき中三(9回中7):心理学女学生担当。高等養護校を希望し、作文と面接試験以外に好きな数学と英語を自分なりに勉強したいという意欲に応える。好きなことを伸ばしたい向上心に寄り添う。高一進学になった2022春からも継続希望があり支援中。

みずきホーム中三(13回中9):中二から支援体制。担当はベテラン塾講師の社会人女性。希望は調理創造系ときまり、実現する為支援者に付いて良く努力してきた。ホームの尽力により第一志望に合格。支援者を慕い、高一の現在も継続して学ぶ。

みずき中一女子(9回中6):文学歴史が好きで自学ができ国語が得意。担当は英語専門教育の社会人女性。支援者独自のメソッドで英語を学び、先生がインド赴任後も自学している。外国にも関心があり先生の影響で見識が広がっている。

みずき小6(16回中8):英語専門教育女性→教育大女子学生2名担当。個性が強かったが、明るい独自メソッドの英語の先生に付いて、柔らかく表現力が変化している。先生渡印後も学生2名に良く懐いて興味関心のある生活に変化している。

みずき小5(6回):教育大音楽専攻女子学生担当。希望していた先生が見つかり喜ぶ。人懐こく穏やかな女の子。工夫した先生の支援を受け明るく自信が引き出される。小6の現在も継続中で本人の意欲が増している。

成果①小ホームに移る女の子たちは、生活と支援者のふれあいで気持ちの安定と優しい心が引き出される様であり、人間への信頼が呼び戻されると見る。幼い傷が癒えて満たされる様であり、スタッフの方々の努力の賜物とお見受けする。

②支援学級や高等養護の児童も、受験ではない興味分野の寄り添い支援によって、向上心の育成・自己の尊厳の表れが見られ、将来への自信の土台となりうる様である。どのような境遇に置かれても、子供は学びの意志と喜び、プライドをもつ。この活動は「人間の根本的存立に関わる機会」をいただける。

③2年程度の長い支援によって、子供の成長と興味の変遷、将来の希望の醸成に関わることができる。フェアスタートと子供の夢実現は、遠近法もまた必要である。

④児童の特性と優秀な学生とのマッチングが重要。

今後の展望など	他の学生団体、子供支援団体との連携（例；学都仙台こども支援センター設置）。ネットワーク化の推進。支援者は、ひとりのこどもの成長と人格形成を実感。「私の先生」という敬愛の念をうけ、こどもと支援者が相互に進化している。ボランティアは子供の社会的課題（イシュー）の意識化と学問の根拠・市民社会の一員としての体験ができ、将来の担い手として重要な存在である。こどもの逆境に対する安全成育の権利が認知保障され、人的資源の共助のシステムを行政が展望すべきである。
---------	--

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	300,000	
会費収入	48,000	
寄付金	20,000	小児科開業医より
合計	368,000	

■ 支出の部

費目	内容	予算額（円）	実支出額
VO 交通費①	@2,500 仙台駅⇔茂庭台 延べ71回（9回はこども二人同時担当）古川2白石1塩釜利府1名含む 9月23日～4月30日	480,000	155,000
教材費	こども一人@2,500 寺子屋テスト6人分 10,296	62,500	47,796
講習会議費	みやぎ NPO プラザ 「児童養護の現状」	5,000	5,000
講師謝礼	天使園園長土倉	10,000	5,000
理事連絡交通費②	@1,000 蔵王⇔仙台 9月～4月30日 16回	48,000	16,000
事務所学生ボランティア交通費	@1,000×24回	24,000	該当せず
事務用品・印刷他 通信費	17,901+9,068	0	該当せず
合計		629,500	228,796

*助成金返金額

300,000－228,796＝71,204 以上報告いたします